

## 鳥取市の発展は協働の精神で

(財)とっとり政策総合研究センター理事長 / 元 鳥取市合併協議会委員

インタビュー INTERVIEW 道上正規さん / みちうえ まさのり

鳥取市は、1市8町村が合併し、20万都市になりました。その結果、観光、文化、各種産業などの資源が増え、インパクトのある都市としての魅力や能力を兼ね備えています。このような資源を官民挙げて知恵を出し合いながら、活かしていかなければなりません。

そのためには、各地域が元気になって、活力に溢れる地域づくりをすることが今後重要になってきます。また、限られた財源の効率的な配分と市職員

の資質向上も欠かせません。平成21年には、待望の高速道路・鳥取自動車道の開通が予



定されています。高速交通網を活かして、早い段階から全国に情報発信していくことができ、本当の意味での大鳥取市になると思います。条件はそろいました。鳥取市が大発展をとげるのはみなさんの力の結集が決め手となりますので、みなで協働して頑張りましょう。

りが実質的に前進を始めた年となりました。

### 合併による効果が現れています

#### ■スケールメリット

本市では、合併のスケールメリットを活かした行財政改革を積極的に行い、人件費・物件費の両面での削減を計画的に実施しています。

平成18年度予算の経常的経費については、対前年度比13・2%減(3億8529万円減)、人件費については、対前年度比3・2%減(3億3763万円減)の削減となっています。

また、必要最小限の人員で最大の効果をあげることができ、大きな組織・機構への見直しや、指定管理者制度の導入、効率的・効果的な事務事業の民間

委託への移行、電子自治体化の推進などによる職員数の適正化に向けた「鳥取市定員適正化計画」を今年度から実施しています。

#### ■特例市への移行

本市は、山陰で初の特例市となり、環境、都市計画・建設、産業経済の分野で、26法令378項目の事務が県から権限委譲され、より専門性の高い行政サービスの提供やまちづくりが可能となりました。

これにより、やすらぎと、あじわいと、にぎわいのあるまち(拠点形成)を目指す「鳥取市都市計画マスタープラン」では、この計画に沿った事業の展開などをより円滑に進めることができます。

#### ■情報化と都市交流の推進

合併にともなうインフラの整備については、合併特例債による有利な財源を活用し事業を実施してきました。その中で、今年8月、新市域全体を網羅するCATV網の整備事業が完了しました。

これにより新市の一体感の

## 地域の特性にも配慮した取り組みに期待

青谷地域審議会委員

インタビュー INTERVIEW 尾崎洋子さん / おさき ようこ



合併により、各種行政サービスの利用施設やイベント参加などの範囲が広がり、各地域の資産や事業を有効に利用できることは良いことだと思います。また、私たちの地域には無かった制度が受けられるようになるなど、生活圏域に広がりが増しうれしく感じます。

しかしその反面、これまで役場が近かったことで、受けることができていたサービスがほかの地域に行かなければならない場合があり、交通の便が整っていない地域などは特に不便さを感じます。また、

総合支所で判断できないことについて、返事が後日になるなど、短時間に事を済ますことができないこともあります。このような地域の現状について配慮した地域運営が行われるよう、今後の取り組みに期待します。

醸成が図られるとともに、高速インターネットサービスの提供など情報格差が解消され、本市の情報化は格段に進展します。そして、この情報通信基盤を活用した電子申請など、電子自治体化による福祉・医療・教育・防災などの行政サービスの充実と事務事業の簡素化を推進し、情報化先進都市の実現に向けた取り組みを行っていきます。

また、都市交流では、昨年11月に、鳥取藩士の安積開拓(あさか)で鳥取とゆかりのある福島県郡山市と姉妹都市提携を結び、新たな交流がはじまりました。今後は、目の前に控えた高速交通網の整備に合わせ、姫路・岡山とのトライアングル連携など国内の交流を一層推進するとともに、北東アジアの環日本海地域との連携に積極的に取り組みます。